

日本語教育学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語教育学特論Ⅰ	言語理解学習過程	2	小河原義朗	2学期	火	2	日本語教育論特論Ⅰ
日本語教育学特論Ⅱ	日本語学習者と学び	2	島崎薫	1学期	火	2	日本語教育論特論Ⅱ
日本語教育学特論Ⅲ	日本語教育のためのフィールドワーク	2	村田 晶子	集中(1学期)	日本語	4	日本語教育論特論Ⅲ
日本語教育学総合演習Ⅰ	課題研究Ⅰ	2	小河原義朗・島崎薫	1学期	水	5	
日本語教育学総合演習Ⅱ	課題研究Ⅱ	2	小河原義朗・島崎薫	2学期	水	5	
日本語教育方法論研究演習Ⅰ	日本語学習者が持つ「異文化」を知る	2	島崎薫	1学期	火	4	日本語教育論講読
日本語教育方法論研究演習Ⅱ	第二言語習得研究	2	小河原義朗	1学期	月	2	
日本語教育方法論研究演習Ⅲ	日本語教育評価法	2	伊東 祐郎	集中(2学期)	日本語	4	
日本語教育学研究演習Ⅰ	地域日本語支援	2	島崎薫	2学期	水	2	日本語教育論研究演習Ⅰ
日本語教育学研究演習Ⅱ	言語技能と教育	2	小河原義朗	1学期	金	3	日本語教育論研究演習Ⅱ
日本語教育学研究実習Ⅰ	プログラムをデザインする	2	島崎薫	1学期	月	3・4	日本語教育論実習Ⅰ
日本語教育学研究実習Ⅱ	プログラムを運営し、評価する	2	島崎薫	2学期	月	3・4	日本語教育論実習Ⅱ

科目名：日本語教育学特論 I / Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：小河原義朗（教授）

講義コード：LM22202， 科目ナンバリング：LJS-LIN615J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論特論 I 】

1. 授業題目：

言語理解学習過程

2. Course Title (授業題目)：

The process of Language learning and understanding

3. 授業の目的と概要：

人がことばを理解し学習するとはどういうことなのか、その様々な考え方や理論について理解を深める。その上で、聴解または読解の教材を分析し、教材案を作成し、模擬授業を実施して授業分析をすることによって、教育方法や学習方法の改善につなげる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students deepen their understanding of theories related to language learning. Students also analyze various teaching materials, their own teaching materials, and their microteaching practices to improve their ways of teaching in class.

5. 学習の到達目標：

- (1) 言語の理解・学習過程についての理論的な背景を理解し、説明できる。
- (2) 理論的な背景を踏まえて、教材を分析・作成し、実践に結び付けることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is

1. to help students explain theoretical backgrounds of language learning
2. to provide them opportunities to analyze, create effective teaching materials and be able to apply them to teaching practice.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：言語の学習とは
- 第3回：言語理解学習のメカニズム
- 第4回：言語の記憶・処理過程
- 第5回：言語の理解・産出過程
- 第6回：学習科学
- 第7回：教材分析（聴解）
- 第8回：教材作成（聴解）
- 第9回：模擬授業（聴解）
- 第10回：授業分析（聴解）
- 第11回：教材分析（読解）
- 第12回：教材作成（読解）
- 第13回：模擬授業（読解）
- 第14回：授業分析（読解）
- 第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 30%、授業参加度 30%、授業課題 40%

9. 教科書および参考書：

卯城祐司(2009)『英語リーディングの科学』研究社

10. 授業時間外学習：

提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学特論Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

semester：1学期， 単位数：2

担当教員：島崎薫（准教授）

講義コード：LM12203， 科目ナンバリング：LJS-LIN616J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論特論Ⅱ】

1. 授業題目：

日本語学習者と学び

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Language Learners and Learning

3. 授業の目的と概要：

この授業では、学習に関する基本的な理論を学ぶとともに、それらの理論をどのように日本語教育をはじめとした言語教育の現場や留学生と国内学生がともに学ぶ国際共修などに応用できるのかを考える。授業の中で、理論を使い、授業をデザインする活動も行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will understand the fundamental learning theories and think how these theories can be applied in language classes and intercultural co-learning classes. The course will provide students with opportunities to design an intercultural co-learning class based on the theories.

5. 学習の到達目標：

受講生は、授業履修後以下のことが達成される：

- ・学習に関する基本的な理論を理解し、説明することができる
- ・それらの理論を利用した授業をデザインすることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After completion of this course, students are expected to:

- ・understand and describe fundamental learning theories
- ・design a class by using these theories

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション、教育と学習について考える

第2回：4つの学習モデル（学習転移モデル、経験学習モデル、批判的学習モデル、正統的周辺参加モデル）：調べる

第3回：4つの学習モデル（学習転移モデル、経験学習モデル、批判的学習モデル、正統的周辺参加モデル）：共有する

第4回：インストラクショナルデザインとは

第5回：学習環境デザインとは

第6回：学習環境デザインの理論

第7回：実践コミュニティとは

第8回：実践コミュニティの理論

第9回：インストラクショナルデザインと学習環境デザインの融合

第10回：国際共修授業をデザインする：実践を分析する

第11回：国際共修授業をデザインする：実践を考える

第12回：国際共修授業をデザインする：発表準備

第13回：中間発表、コメント

第14回：修正

第15回：最終発表、まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語教育学特論Ⅲ／ Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) III

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：村田 晶子（非常勤講師）

講義コード：LM98805， 科目ナンバリング：LJS-LIN617J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論特論Ⅲ】

1. 授業題目：

日本語教育のためのフィールドワーク

2. Course Title (授業題目)：

Fieldwork for Japanese Language Education

3. 授業の目的と概要：

日本語教育にいかに関係するフィールドワークの技法を生かすことができるのか、講義と実践を通じて学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to develop students' understanding of the fieldwork method. Through lectures and exercises, participants will learn to apply the fieldwork method to language education.

5. 学習の到達目標：

受講者は以下のことを学ぶことができる：

1. フィールドワークの意義、背景、技法を理解する
2. 日本語教育にいかに関係するフィールドワークを用いることができるのか理解し、簡単なフィールドワークを実施し、結果をまとめることができるようになる
3. フィールドワークを受講者自身の研究や教育に生かすことができるようになる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Participants will learn the following:

1. The basic method and techniques of fieldwork
2. How to conduct mini-fieldwork and apply fieldwork to language education
3. How to use the fieldwork method and techniques in their own research and language teaching

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 文化人類学とフィールドワーク
3. 言語教育とフィールドワーク
4. フィールドワークの技法(1)
5. フィールドワークの技法(2)
6. フィールドワークの練習(1)
7. フィールドワークの練習(2)
8. フィールドワークの練習(3)
9. ライフストーリーインタビューについて
10. ライフストーリーインタビューの練習(1)
11. ライフストーリーインタビューの練習(2)
12. ライフストーリーインタビューの分析
13. フィールドワークの言語文化教育への応用(1)
14. フィールドワークの言語文化教育への応用(2)
15. フィールドワークの言語文化教育への応用(3)

8. 成績評価方法：

出席を含む授業参加度 (20%)、課題 (40%)、期末レポート (40%) により評価する。欠席 3 回で、自動的に不可となる。遅刻・早退は、2 回で欠席 1 回とみなす。

9. 教科書および参考書：

教科書/Textbooks

佐藤慎司・村田晶子(2018)『人類学・社会学的視点からみた過去、現在、未来のことばの教育』三元社

参考書/References

村田晶子・箕曲在弘・佐藤慎司 (2020 予定)『留学生と学ぶ多文化フィールドワーク：多様な人々とつながり、対話するために』(ナカニシヤ出版)

10. 授業時間外学習：

課題図書を読み、フィールドワークの課題の準備、まとめをおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

出席と積極的なクラス参加を重視します (グループディスカッション、フィールドワーク含む)。

科目名：日本語教育学総合演習 I / Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：小河原義朗・島崎薫（教授、准教授）

講義コード：LM13502， 科目ナンバリング：LJS-LIN618J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

課題研究 I

2. Course Title (授業題目)：

Topic Research 1

3. 授業の目的と概要：

大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study topics (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves afterwards.

5. 学習の到達目標：

参加者相互の研究発表を通じて、

- (1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。
- (2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。
- (3) 各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.
2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions
3. steadily progress in their own study

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：オリエンテーション

第 2 回：修士課程 2 年生による進捗状況報告（課題）

第 3 回：修士課程 2 年生による進捗状況報告（先行研究）

第 4 回：修士課程 1 年生による研究計画報告（背景）

第 5 回：修士課程 1 年生による研究計画報告（課題）

第 6 回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）

第 7 回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）

第 8 回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）

第 9 回：修士課程 2 年生による結果報告

第 10 回：修士課程 2 年生による分析報告

第 11 回：修士課程 1 年生による進捗状況報告（目的）

第 12 回：修士課程 1 年生による進捗状況報告（先行研究）

第 13 回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）

第 14 回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）

第 15 回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：

発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語教育学総合演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：小河原義朗・島崎薫（教授、准教授）

講義コード：LM23502， 科目ナンバリング：LJS-LIN619J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

課題研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Topic Research 2

3. 授業の目的と概要：

大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves.

5. 学習の到達目標：

参加者相互の研究発表を通じて、

- (1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。
- (2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。
- (3) 各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.
2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions
3. steadily progress in their own study

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）とディスカッション

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）とディスカッション

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）とディスカッション

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）とディスカッション

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第9回：修士課程2年生による結果報告とディスカッション

第10回：修士課程2年生による分析報告とディスカッション

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）とディスカッション

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）とディスカッション

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：

発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語教育方法論研究演習 I / Methodologies in Japanese Language Teaching (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：島崎薫（准教授）

講義コード：LM23202， 科目ナンバリング：LJS-LIN620J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論講読】

1. 授業題目：

日本語学習者が持つ「異文化」を知る

2. Course Title (授業題目)：

Understand different cultural background of Japanese language learners

3. 授業の目的と概要：

日本語学習者にインタビュー調査することを通して、学習者が持つ文化背景や考え方についての理解を深める。インタビューの方法を学んだ上で、グループに分かれて調査をデザインし、データ収集をして分析をし、調査結果を教室内で発表するとともに、学期末にレポートとしてまとめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course helps students understand Japanese language learners' backgrounds and thought through an interview with them. Students will learn how to conduct an interview research, create a research design in group, collect and analyze data, make a presentation in the class and write up a report at the end of the semester.

5. 学習の到達目標：

受講生は、授業履修後以下のことが達成される：

- ・日本語学習者が持つ異なる文化背景や考え方への理解を深める
- ・インタビュー調査の方法や分析方法を習得する
- ・調査を通じて分かったことを、論理的に説明することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

After completion of this course, students are expected to:

- enhance their understanding of Japanese language learners' different cultural background and thought
- acquire skills to conduct interview research and data analysis
- explain results from the interview research logically

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション、「異文化」を体験する
- 第2回：学習者が持つ「異文化」に関する調査のデザイン（調査目的を決める）
- 第3回：学習者が持つ「異文化」に関する調査のデザイン（対象者など調査概要を決める）
- 第4回：調査のデザインの発表
- 第5回：インタビューの仕方を学ぶ
- 第6回：インタビューの練習
- 第7回：インタビュー準備
- 第8回：インタビュー準備
- 第9回：書き起こし
- 第10回：分析方法を学ぶ
- 第11回：分析①
- 第12回：分析②
- 第13回：分析③
- 第14回：発表
- 第15回：振り返り・まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅱ／ Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：小河原義朗（教授）

講義コード：LM11203， 科目ナンバリング：LJS-LIN621J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

第二言語習得研究

2. Course Title (授業題目)：

Second Language Acquisition Research

3. 授業の目的と概要：

日本語を教えるための理論的アプローチの一つとして第二言語習得研究を取り上げる。第二言語習得の基本的な考え方を理解し、具体的な教材や教室活動と結び付けて捉えることによって、第二言語習得理論を踏まえた授業実践について考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will understand the basic knowledge of SLA and consider it relating to various teaching practice(teaching materials and classroom activities)

5. 学習の到達目標：

- (1) 第二言語習得の基本的な考え方を理解し、説明できる。
- (2) 第二言語習得研究の知見を日本語教育の具体的な授業実践と結び付けて考えることができる。
- (3) 第二言語習得研究の方法論を自らの研究に活用することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The goals of this course are to be able to:

1. explain the basic knowledge of SLA
2. consider it relating to practice in Japanese language teaching
3. apply it to their own study.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第二言語習得研究
3. 中間言語
4. 母語の影響
5. 習得順序
6. インプットとアウトプット
7. 教室における学習
8. 言語習得要因
9. バイリンガル教育
10. 第二言語習得研究と日本語教育
11. 第二言語習得研究の方法
12. 文献講読
13. 文献講読
14. 文献講読
15. 文献講読とまとめ

8. 成績評価方法：

テスト 30%・課題 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

教科書：大関浩美(2010)『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版

10. 授業時間外学習：

提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅲ／ Methodologies in Japanese Language Teaching (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：2 学期, 単位数：2

担当教員：伊東 祐郎 (非常勤講師)

講義コード：LM98806, 科目ナンバリング：LJS-LIN622J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本語教育評価法

2. Course Title (授業題目)：

Testing in Japanese Language Education

3. 授業の目的と概要：

1. 日本語教育カリキュラムと評価の関係について理解する
2. テストの目的、役割、機能について理解する
3. 言語知識と言語運用力の測定方法を理解し、テスト課題を検討することができる
4. 運用力のメカニズムを理解し、運用力を引き出す方法と測定手順、評価の方法がわかる

日本語能力の評価は、テストをはじめ、複数の手法を用いて行うことが可能です。本講義では、言語知識及び言語能力について概観し、テストにおける良問作成のために必要な理論と技能を獲得することをねらいとします。また、最近のスタンダードにおけるテストの役割についても考察します。テスト作成の演習とディスカッションを通して、評価に対する理解を深めます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

1. Understand educational assessment in teaching and learning
2. Understand test purposes and types.
3. Write the specifications for individual test tasks
4. Develop and analyze their own tests.

This course is intended for two groups of students, ones in introductory language testing and language teachers who need to create tests for themselves or their schools or program. The students will deepen their knowledge of how to plan, write, and administer tests. Emphases are on development of basic practice of language assessment, which help educators make more effective use of evaluation, assessment, and testing procedures in the Japanese language classroom. It is also provided a conceptual overview of how to score and analyze test results, as well as an overview of test validation procedures. The course involves a better understanding of the qualities of good assessment and of processes and techniques for improving testing. A practical and widely applicable approach to building quality assessments for use in the classroom or in testing programs is also introduced.

5. 学習の到達目標：

1. 言語テストにおける信頼性、妥当性、実用性、真正性の概念を把握し、テストを作成できる
2. 得点の分析から良問を判定できる
3. テスト結果の統計的処理方法を把握し、そこから得られる情報を解釈できる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After successfully completing this course, students will be able to:

1. Prepare grading criteria and answer keys along with tests
2. Make informed decisions about assessment programs
3. Understand descriptive statistics and standard scores.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 日本語教育におけるテスト及び評価

第2回 テストの特性：信頼性、妥当性、実用性、真正性

第3回 言語知識と言語能力-その構成要素を考える：「文法」

第4回 言語知識と言語能力-その構成要素を考える：「文字」

第5回 言語知識と言語能力-その構成要素を考える：「語彙」

第6回 言語能力とテスト項目作成の実際 (作題と検証)：「聴解力」

第7回 言語能力とテスト項目作成の実際 (作題と検証)：「読解力」

第8回 言語能力とテスト項目作成の実際 (作題と検証)：「口頭表現力」

第9回 言語能力とテスト項目作成の実際 (作題と検証)：「文章表現力」

第10回 統計数値の活用 (その1) -良問作成のための項目分析の手法

第11回 統計数値の活用 (その2) -テスト実施後に得られる得点の活用と解釈

第12回 テスティングにおける言語能力記述文 (Can-do Statements) の役割

第13回 スタンダードとテスト-教育内容の透明性と一貫性

第14回 日本語教育におけるテスト-教授・学習・評価の視点から

第15回 評価法のまとめ/修了試験 (学期末試験)

8. 成績評価方法：

- ① 受講時の平常点 (40%)
- ② 事前課題演習及び発表 (40%)
- ③ 修了試験 (20%)

9. 教科書および参考書：

○教科書 1

書名：『日本語教師のためのテスト作成マニュアル』

著者名：伊東祐郎 著,

出版社：アルク

出版年：2008

○教科書 2

書名：『日本語教師のための評価入門』

著者名：近藤ブラウン妃美

出版社：くろしお出版

出版年：2012

○参考書 1

書名：『テストを作る』

著者名：関正昭・平高史也編村上京子他著

出版社：スリーエーネットワーク

出版年：2013

○参考書 2

I 書名：『言語テストの基礎知識』

著者名：ブラウン, J. B.、和田稔訳

出版社：大修館書店

出版年：1999

○参考書 3

書名：『〈実践〉言語テスト作成法』

著者名：バックマン, L.F. 他、大友賢二他監訳

出版社：大修館書店

出版年：2000

○参考書 4

書名：『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』

著者名：吉島茂、大橋理枝訳編

出版社：朝日出版社

出版年：2004

○参考書 5

書名：Designing and Analyzing Language Tests (Oxford Handbooks for Language

Teachers)

著者：Nathan T. Carr

出版社：Oxford University Press

出版年：2011

備考：Includes a CD-ROM.

10. 授業時間外学習：

○受講前（事前）に、既存のテストを分析し、測定しようとしている言語知識、言語能力についてまとめ、開講中に発表する。

○既存のテストについて、出題内容、構成、解答形式等の観点から分析・考察し、開講中に発表する。

○毎時の授業前後に、指定されたテキストを読んで、理解を深める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

受講資格：グループ演習及び発表を予定しているので、全回出席が可能な者

科目名：日本語教育学研究演習 I / Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：島崎薫（准教授）

講義コード：LM12402， 科目ナンバリング：LJS-LIN623J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論研究演習 I 】

1. 授業題目：

地域日本語支援

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Language Support in Local Communities

3. 授業の目的と概要：

地域日本語支援の様々な現場について調べ、変遷や背景を理解するとともに、実際に現場を見学し、体験することで、それぞれの現場の学習者や教師・ボランティアの置かれている環境について理解を深め、支援の在り方について考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides students with opportunities to explore Japanese language support for foreigners in local communities and enhance their understanding of its history and backgrounds. In seeing and participating in activities conducted by local communities and governments, students can further understand foreigners and instructors/volunteers and deepen their thought of how such support should be.

5. 学習の到達目標：

受講生は、授業履修後以下のことが達成される：

- ・多様な地域日本語の現場について理解し、説明できる。
- ・地域日本語の現場の多様な学習者について理解し、説明できる。
- ・その多様な現場での支援の在り方について自分なりに考えることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After completion of this course, students are expected to:

- describe how Japanese language support in local communities is been conducted
- describe the diversity of foreigners/Japanese language learners in local communities
- make their own proposal of how local communities should support such diverse foreigners/Japanese language learners

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：地域日本語支援の現状（問題の洗い出し）
- 第3回：地域日本語支援の現状（取り組み事例のまとめ）
- 第4回：ポスターセッション準備
- 第5回：ポスターセッション
- 第6回：中国帰国者の背景と現状
- 第7回：外国にルーツを持つ子どもたちの背景と現状
- 第8回：地域の日本語教室の背景と現状
- 第9回：中国帰国者支援交流センターへの訪問
- 第10回：中国帰国者支援交流センター訪問の振り返り
- 第11回：国際教室への訪問
- 第12回：国際教室訪問の振り返り
- 第13回：地域日本語教室への訪問
- 第14回：地域日本語教室訪問の振り返り
- 第15回：まとめ

*第9回、11回、13回は授業外の時間に実施し、実際に現場を訪問する。訪問日時は訪問先と履修生の都合を照合し、決定する。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：定員を15名とします。

The maximum number of participants for this course is 15.

科目名：日本語教育学研究演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

Semester：1学期， 単位数：2

担当教員：小河原義朗（教授）

講義コード：LM15301， 科目ナンバリング：LJS-LIN624J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

言語技能と教育

2. Course Title (授業題目)：

Language skills and Teaching

3. 授業の目的と概要：

学習者が話す、または書くことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉・書き言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、または書き言葉の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話す、または書く可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students will explore what language teachers should do to improve learners speaking/writing skills in the Japanese language classroom,

5. 学習の到達目標：

(1)話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2)目的に応じて話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動を考え、教材を作り、評価することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After completing this course, students will be able to:

1. better understand syllabus and classroom activities to improve learners speaking/writing skills
2. create effective teaching materials and evaluate them for themselves

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：コミュニケーション活動の実際1

第3回：コミュニケーション活動の実際2

第4回：会話・作文の分析1

第5回：シラバスの検討1

第6回：教室活動の検討1

第7回：会話・作文の分析2

第8回：シラバスの検討2

第9回：教室活動の検討2

第10回：会話・作文の分析3

第11回：シラバスの検討3

第12回：教室活動の検討3

第13回：フィードバックと評価1

第14回：フィードバックと評価2

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：

提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学研究実習 I / Applied Japanese Linguistics (Practice) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時、前期 月曜日 4 講時

Semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：島崎薫（准教授）

講義コード：LM11302， 科目ナンバリング：LJS-LIN625J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論実習 I】

1. 授業題目：

プログラムをデザインする

2. Course Title (授業題目)：

Design a Program for Japanese language learners

3. 授業の目的と概要：

この授業では、多様な学習者それぞれのニーズやレディネス、環境などの現状を分析し、社会からのニーズも鑑みた上で、総合的に判断し、学習者にとって最適なプログラムをデザインできるコーディネーターの育成を目指す。またプログラムをコーディネートする上で、周囲の人との連携は不可欠であることから、この実習でも他の学生と協働でプログラムをデザインし、運営していくことで、他者と協働的実行力を養う。なお、この授業では、東北大学の留学生を対象に、現状を分析し、彼らが抱えている課題・問題が少しでも解決されるようなプログラムをデザインすることを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to develop a coordinator who can analyze the needs, readiness and living environment of learners with diverse backgrounds, consider the social situation around them, and design the most appropriate program. Since it is also necessary to earn ability to coordinate a program with other instructors, this course will provide students with an opportunity to design and carry out a program together. In this course, students will analyze the needs and readiness, and living environment of the international students of Tohoku University and design a comprehensive language course in order for them to have better student life.

5. 学習の到達目標：

受講生は、授業履修後以下のことが達成される：

- ・コースデザインにおける基礎的な知識を実践で運用し、学習者自身や学習者の状況に合わせたコースをデザインすることができる
- ・プログラムを評価する適切な方法について考えることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)

After completion of this course, students are expected to:

- ・design an appropriate program for learners by using fundamental knowledge of course design.
- ・decide an appropriate evaluation methods of program

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション、コースデザインの基礎知識の復習
- 第2回：東北大学の留学生の実態について知る
- 第3回：プログラムのテーマ、対象などを決める
- 第4回：シラバスの検討①
- 第5回：シラバスの検討②
- 第6回：シラバスの検討③
- 第7回：発表、コメント
- 第8回：シラバス修正案の検討
- 第9回：カリキュラム案の検討
- 第10回：カリキュラム案の発表、コメント①
- 第11回：カリキュラム案の発表、コメント②
- 第12回：カリキュラム案の発表、コメント③
- 第13回：カリキュラム案の再検討
- 第14回：カリキュラム案の発表、コメント①
- 第15回：カリキュラム案の発表、コメント②

8. 成績評価方法：

授業への参加態度 60%、報告書（プログラムデザインの部分）への貢献 40%、

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語教育学研究実習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Practice)II

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時、後期 月曜日 4 講時

Semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：島崎薫（准教授）

講義コード：LM21302， 科目ナンバリング：LJS-LIN626J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論実習Ⅱ】

1. 授業題目：

プログラムを運営し、評価する

2. Course Title (授業題目)：

Conduct and Evaluate a Program for Japanese language learners

3. 授業の目的と概要：

前期にデザインしたプログラムをチームで実施し、そのプログラムを評価する。プログラムを実施する中で、日本語の授業を行うだけではなく、その他の活動のコーディネートも行い、総合的にプログラムを運営する。またプログラム評価のためのデータも集め、それをもとにプログラムの評価を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will carry out the program designed last semester in using a team teaching approach, and evaluate the program at the end of the program. When they conduct the program, they will not only teach Japanese in class but also coordinate the whole program. Meanwhile, they will collect data in order to evaluate the whole program at the end.

5. 学習の到達目標：

受講生は、授業履修後以下のことが達成される：

- ・ 目的を達成するために日本語の授業を実施したり、活動を行ったりしてプログラムを適切に運営することができる。
- ・ 収集したデータを分析し、適切にプログラムの評価を行うことができる。
- ・ チームで協力し、担当した役割を果たしながら協働で運営することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After completion of this course, students are expected to:

- ・ teach Japanese and conduct activities, coordinate the program appropriately in order for learners to achieve a goal
- ・ analyze data collected during the program and evaluate the program based on the data analysis
- ・ play their own roles and coordinate the whole program collaboratively

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回： 模擬授業と振り返り①
- 第2回： 模擬授業と振り返り②
- 第3回： 模擬授業と振り返り③
- 第4回： 模擬授業と振り返り④
- 第5回： 模擬授業と振り返り⑤
- 第6回： 模擬授業と振り返り⑥
- 第7回： 模擬授業と振り返り⑦
- 第8回： 模擬授業と振り返り⑧
- 第9回： 模擬授業と振り返り⑨
- 第10回： 実践発表の準備①
- 第11回： 実践発表の準備②
- 第12回： 発表の振り返り
- 第13回： 報告書準備①
- 第14回： 報告書準備②
- 第15回： まとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加態度 60%、最終報告書への貢献 40%、

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：

基本的に実習は授業外の時間に行われます。授業の中ではその準備と振り返りを行います。

Teaching practicum will be conducted outside of the class while preparation and reflection will be carried out in the class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：日本語教育学研究実習Ⅰを履修し、単位を取得していることがこの科目の履修条件です。

学会の実践共有の場などに出席し、実習での教育実践について紹介して、広くコメントをもらう機会があります。